

平成31年度 特色ある区づくり予算（東区自治協議会提案事業）の委員提案について

事業名	(1) じゅんさい池の自然環境復元事業 “じゅんさい”が繁茂する砂丘湖じゅんさい池の復活を目指して	(2) 発災時における“地域防災対応力”を思考 —自治会・町内会の住民対応力の向上を目指して—	(3) 発災時における“ドローン”の活用 について思考 —被災状況の把握に関し、「有効」か検証の追及—	(4) 買い物難民（困難者）の調査・研究 （東区における買い物難民救済のための協働実証実験）
現状・課題	平成30年度に自治協提案事業として活動するも根本的な解決に至っていない。 少し水抜きをしたり、睡蓮や葦の刈込みや水中の古木を撤去するなど、人力による保全活動を実施したが、根本的な改善策とは言えない。 何もしなければ睡蓮は繁茂し、外来種のミシシippアカミミガメは今後増え続け、生物の生態系は破壊されかねない。 平成31年度も自治協の事業として継続し、更なる改善に取り組む必要がある。	発災時の対応として、自治会、町内会、自主防災会は、被災住民の状況を想定して、必要な資材の備蓄や具体的な対処・対応策を立案し、取り組みを進めているだろうか（単なる防災訓練に終始しているのではないだろうか）	発災時、地域コミ協は、地域の被災状況を早々に把握し、被災住民への適切な支援が求められる。 しかし、その被災状況を把握する有効な手段、方法は現在あるのか。 地域コミ協の現状において被災状況を把握するには、自治会、町内会からの報告・支援要請を待つしか方法はない。その自治会、町内会自体も、状況を把握するには、人力で“足”で動き把握するか、住民からの報告か支援要請を待つしかない。その報告も、口頭か“紙”ベースしかなく、スムーズな情報伝達には課題がある。そのような現状下で被災状況の全体を掌握することは容易ではない。	政府の2015年推計値で、買い物難民は65歳以上の4人に1人と言われ、東区内でも増えている。 （町内でも、子に土・日いずれか1回スーパーで買い物又は子の出勤前朝5時半ごろ週に2回スーパーに買い物に連れて行ってもらう等をしている方がいる）
事業目的 （期待される効果）	①睡蓮に覆われた東池・西池において、公園の名前の由来である「じゅんさい」の復活を目指す。 ②外来種であるミシシippアカミミガメ、クサガメの駆除を図り、生物多様性の確保を目指す。 ③誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創設を図り、まちづくりの一環とする。	地域住民は、被災時、まず自治会、町内会に対してその支援を要請する。 自治会としても、日頃の町内活動を通じて住民の状況を認識、理解しているはず。その住民状況や地域の道路、町内の地域特性などを踏まえたうえで、平時の今から、発災時の対応について、随時、取り組むことが求められる。	“ドローン”を導入することで、発災時において、現地・現場に行かなくても、その被災状況を空撮による画像を見ることで、状況の概要を把握できる。（家屋倒壊、土砂崩れ、浸水家屋、道路の陥没等） まずは、導入効果やその使用方法など、ドローンに関する情報を集め、検討してはどうか。“有効”と判断した場合、具体的に検討を進めることとしたい。	実証実験を実施し、東区における買い物難民の課題を把握し、解決方法・策を検討する。
事業内容	①繁茂しすぎた外来植物の睡蓮の除去を行い、水質の改善を図る。 ②繁殖しすぎた外来種ミシシippアカミミガメの駆除を行い、生態系の復活を目指す。 ③子どもたちに身近な自然環境を提供し、東山の下小学校の環境学習の継続を図る。 ④新潟市内に存在する砂丘湖は、“じゅんさい池”と“北山池”の2か所しかないことが新潟市潟環境研究所の調査により確認された。じゅんさい池は現在、地下水の湧出は確認されておらず、地下水位、流速、地質等の調査が今後も必要。 ⑤活動報告を兼ねたセミナーを開催することにより、何を目標しているのかを地域住民をはじめ市民と共有することができ、より多くの関心と呼びかけることができる。 ⑥環境保全を行うことにより、市街地に残された貴重な自然公園としてのじゅんさい池を市民等の交流の場とすることで、地域のつながり、ふれあいを通じて、顔の見えるまちづくりに貢献する。	一つの案として「研修会の開催」を下記のとおり提案する。 地域の自治会、町内会の役員を対象に研修会を開催〔各コミ協別〕 ①自治会、町内会より4～6名（1グループ）参加 ※ワークショップ形式 ②1カ年 6コミ協を対象に開催 ※1日に〔午前・午後〕2コミ協実施 ③研修会の内容 ※開催場所は、各コミ協地内の会場（コミセン等） ア 被災状況の実映像を交えて、平時での対策の必要性を講師により講演 イ ワークショップ開催 【テーマ例】 ・発災時、町内の被災状況を地域特性を踏まえ想定し、考えてもらう（倒壊家屋、土砂崩れ、ブロック塀の倒壊、道路亀裂など） ・その被災状況下において、住民は何を要望するか想定し考えてもらう。 ・自治会、町内会として、平時の今から、何を考え、何を準備したら良いか具体策を考えてもらう。 ※上記について、各テーマごとに15分検討し、2グループ（5分）より発表してもらう。 ウ 講師より講評まとめ	【インターネット情報より】 ・“ドローン”とは、軍事目的に開発された“自立飛行が可能な無人機” ・ローター（プロペラ）が複数ついていることで、安定飛行が可能となった。 ・しかし、完璧な制御に難あり、操作ミスなどで墜落したり、簡単に壊れることもある。 ・1回の充電（数分）で30分程度飛行（長時間ほど高価）（空撮を考えるとであれば高価なものを（本体50万円＋カメラ25万円程度）） ・航空法で定められた厳密な規制あり（飛ばせない場所や禁止事項など） ※国土交通大臣に許可や承認を受ければ制約なし 操作方法の習得に向けたスクールあり ①講師（業者等）を招き、まずは勉強会を開催（全体像を理解） ②ドローン空撮の実態を見る（現場研修会を開催し、その効果の実態を判断）	東区内大型団地である石山（10名）、桃山（10名）、他に一般自治体（5名）から、買い物難民25名をモニターとして選び、半年間、実証実験を行う。 1 スマホで注文（原信、イオン、セブンイレブン等） 2 移動販売車にて週2回巡回販売（加茂市、秋葉区等の例） 3 買い物代行（社協のまごころヘルプ、近くのボランティア組織に依頼等） 4 その他（交通支援、ゴミ出し等、町内援助システムの活用等）
概算事業費	・保全活動に伴う池の水汲み上げに係る仮設電源設備（200V）の導入等（80万円） ・活動の理解とその共有化を図るための活動報告を兼ねたセミナー開催（50万円）	講師料及びテキスト費用		
その他 参考事項				買い物難民対策を実施している他の自治体へ自治協委員が視察・学習する。
提案者	和田 忠義	和田 忠義	和田 忠義	井上 貞男

事業名	(5) 東区めぐり子どもバスツアー	(6) 東区あったかふれあいまつり	(7) 地域で取り組む健康・長寿	(8) 東区の魅力PR・おもてなし事業
現状・課題	地域を誇りに思う児童の育成が学校教育でも重視されているが、学校では学びきれない地域の魅力や特色ある施設が東区にはたくさんあり、より一層の魅力発信が必要である。	高齢者と若い世代の人たちとが交流する機会や一緒に参加できるようなイベントが少なく、関係が希薄となっている。また、家に閉じこもりがちな高齢者は多く、健康のためにも外に出る機会を提供する必要がある。	まだ健康長寿に関心があっても、会場に行く勇気がない人たちにも来ていただき、参加してもらう。	東区には、港や空港、また、固有の歴史・文化、魅力的な施設が多く存在するが、話題性が弱く、報道等に取り上げられる機会が少ない。
事業目的 (期待される効果)	区内の特色ある施設を実際に訪れ、見て学び体験することにより、東区の魅力の再発見と子どもたちの東区に対する愛着や誇りを育む。 また、他校の児童との交流により、子どもたちが社会性を育む機会を提供する。	閉じこもりがちな高齢者と若い世代の人たちとの交流の機会や健康づくりの場を提供することを目的に、多世代で一緒になって楽しめるイベントを開催する。	地域での交流を促すとともに、健康を意識した生活を送るためのきっかけづくりを行う。 健康寿命延伸に向けた取り組みの柱である「運動」「減塩」「健診受診」をテーマにした体験型の講座を気軽に参加できるよう、区内3地区で実施	○イベントの話題性向上と東区の魅力発信 東区内で実施されるイベントと連動し、話題提供と東区の魅力発信を進める。 また、東区のイベントに参加してよかった！、また来たい！と思えるような「おもてなし」も併せて行うことで、東区のファンを増やし、区内外から注目されることにつなげる。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 小学4～6年生を対象に、東区内の特色ある施設を見学するバスツアーを実施する。 企画の実施にあたっては、これまで実施してきたバスツアーの反省を踏まえ、内容や見学先の設定を行う。 ツアー当日は自治協議会委員及び看護師が引率し、児童の見学をサポートする。 ツアー終了後は、参加児童へアンケートを行い、今後の自治協議会活動の参考とする。 	外に出る機会が少なくなる冬季に東区プラザホールなどで世代間交流イベントを開催する。 音楽演奏や体操、バルーンアートパフォーマンスなど、地域で活躍している方を出演者に招き、幅広い世代が楽しめるプログラムとする。	<ul style="list-style-type: none"> 区内3地区（木戸、山の下、石山）で実施する。 保健所、運動普及推進協議会東支部、食生活改善推進委員協議会東支部と連携し、実施する。 血圧等の簡易測定を行うことで、自分の体の状態を知ってもらう。また、自宅でもできる運動を行うとともに、体にやさしい軽食と一緒に食べ、参加者同士の交流を図る。 	区役所企画事業として提案している「区民のこいのぼりプロジェクト」と連動し、東区の魅力を広くPRするとともに、区民全体のイベントとして認識してもらうよう広報活動を行う。 また、イベントに訪れた方に満足いただき、また来たい！さらには、東区に住みたい！と感じてもらえるよう、おもてなし事業を実施する。 事業の実施にあたっては、地域各団体及び子育て交流施設「い〜てらす」との協働体制を組みながら進める。 実施場所：寺山公園 （区民のこいのぼりプロジェクトと連動） 実施期間：区民のこいのぼりプロジェクト実施期間 （4月～5月 約2か月間） 実施内容：イベント告知・広報、おもてなしブースの設営
概算事業費	16万円 バス借上げ料 7万円 チラシ印刷費 5万円 看護師謝礼 2万円 スタッフ昼食代 1万円 役務費（保険料、郵便料等） 1万円	33万円 出演者謝礼 12万円 消耗品費等 10万円 チラシ印刷代 5万円 役務費（物品搬出料、保険料等） 3万円 駐車場誘導警備等委託料 3万円	23万円 講師謝礼 10万円 食材購入費 3万円 その他消耗品等 10万円	80万円 イベント広報、おもてなし事業に係る施設の設置効果検証
その他参考事項				
提案者	第2部会	第2部会	佐藤 恵子	吉田 侑延

事業名	(9) 東区の農産物魅力発信事業	(10) 東区内の公共交通の研究	(11) 東区の魅力発信カレンダー制作事業	(12) 大学生・高校生向け工場見学事業
現状・課題	東区には、大形地区の馬鈴薯、下山地区のやわはだ葱に代表されるような特産の農産物があるが、区民の認知度は低い状況となっている。	超高齢社会を迎え、公共交通への需要と関心は高まる一方となっている。 需要を的確に捉え、持続できる公共交通の確立が望まれている。	東区には、多くのPRできる素材があるが、区民に周知されているとは言い難い状況となっている。	東区には県立大学があるが、県外の企業へ就職を希望する学生が多い。また、高校生の地元企業への就職率は高いが、どのような企業があるか知らないまま、就職するケースが多いようである。 また、企業としては、人材不足の課題を抱えているところが多数である。
事業目的 (期待される効果)	特産の農産物の魅力を発信することにより、東区内に誇れる特産品があると周知され、生産者や区民の誇りに繋がる。	区の公共交通が抱える課題を調査・研究し、問題を解決するための方策を検討する。	東区の魅力を題材にしたカレンダーを制作、配布することで東区民にPRする。	若者の人口流出を防ぐことができる。優秀な人材を地元に残すことで、地元企業の活性化が望める。 学生側・・・工場見学をすることで、地元企業について、よりよく知ることができる。そうすることで、地元の企業も、就職希望先の選択肢の一つと考えてもらえるようになる。 企業側・・・工場見学してもらうことで、学生との接点ができ、それが人材採用に繋がる。また、社員達の士気が上がる。
事業内容	平成30年度自治協提案事業にて実施した東区の馬鈴薯を使った料理のアイデアコンテスト応募作品の活用をはじめ、各種PR事業を展開していく	平成28年度の自治協提案事業で実施した「東区の公共交通に関する実態調査」の調査結果をベースに、さらなるニーズ調査や、都市型デマンド交通先進地の視察を実施する。	東区の魅力を各コミ協から推薦していただいた「伝統行事」を題材にしたカレンダーを制作し、区内の小・中学校、コミ協を中心に配布することで、区民に東区の魅力として発信する。	夏休みや冬休み、春休みなどの長期休暇期間を利用し、午前から午後にかけて行う。企業は、学生にとって知名度の高くない企業の方が望ましい（テレビやラジオCMなど行っていない企業）
概算事業費			70万円 カレンダー制作 配送費	バス使用料賃借料
その他参考事項				
提案者	第3部会	第3部会	第3部会	第3部会